

## 安息日の礼拝

エゼキエル書 46 : 1~3

主なる神はこう言われる。「**内庭の東向き**の**門**（→**東内門**、下図②）は、仕事をする六日の間、閉じておかなければならない。**安息日**には門を開く。また、**新月の日**にも**門**を開かなければならない。

君主は外から**門**の廊を通して中に入り、祭司たちが焼き尽くす献げ物と和解の献げ物をささげている間、**門柱**（下図●）の傍らに立っていなければならない。そして、**門**の敷居の所で礼拝した後、出て行く。**門**は夕方まで閉じてはならない。

国の民は、安息日と新月に、**門**の入り口の所で主に向かって礼拝しなければならない。

④聖書には、「安息日」は 151 回（135 聖句）、「礼拝」は 92 回（87 聖句）登場しますが、神が民に対して、安息日に礼拝しなければならないと明記している聖句は、エゼキエル書 46 : 3 のみです。

エゼキエル書 46 : 21~23

彼（→天的存在、エゼ 40 : 3）はわたしを**外庭**に連れ出して、庭の四隅を回らせた。庭のそれぞれの隅には、また庭があった。**四隅の庭**は、それぞれ囲まれた庭であり、長さ四十アンマ、幅三十アンマであった。四つの庭は同じ大きさで、四隅にあった。四つとも、その周囲は石壁で囲まれており、また、石垣を巡らせた**煮る場所**が設けられていた（**民衆の供物調理場**）。

エゼキエル書 42 : 16~20

彼が東側を測り竿で測ると、長さはその測り竿で**五百アンマ**であった。また、移動して北側を測り竿で測ると、長さは測り竿で五百アンマであった。次に転じて、南側を測り竿で測ると、長さはその測り竿で五百アンマであった。彼は四方を測ったが、外壁は全体を囲んでおり、その長さは五百アンマ、幅も五百アンマであった。それは、聖なるものを俗なるものから区別するためであった。

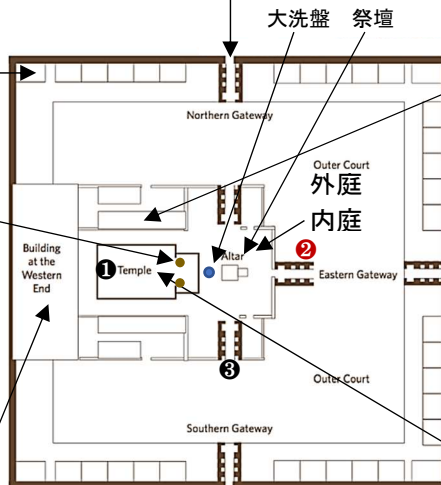
エゼキエル書 41 : 12~13

神殿の西側にある神域に面した**別殿**は奥行き七十アンマ、建物の周囲の壁は厚さ五アンマ、建物の横幅は九十アンマであった。神殿を測ると、奥行きは百アンマであり、神域と別殿の奥行きとその壁の厚さを合計すると百アンマであった。

⑤アンマ : 52.5 cm (通常は約 45 cm)

北外門 エゼキエル書 40 : 20a

外庭に続いて、北の方に向いている門があった。



エゼキエル書 46 : 19~20

彼はまた、門の傍らにある入り口から、北に面した祭司の聖なる部屋にわたしを連れて行った。そこには西向きの隅の一つの場所があった。彼はわたしに言った。「ここは、祭司たちが賠償の献げ物と贖罪の献げ物を煮、穀物の献げ物を焼くところである。これらのものを外庭に持ち出して、神聖さを民に移すことがないためである。」（祭司の供物調理場）。

東外門（正門） エゼキエル書 40 : 6

彼は東の方に向いている門を入った。その石段を上って、門の敷居を測ると、奥行きは一竿、つまり最初の敷居の奥行きは一竿であった。→エゼ 44 : 1, 2

拝殿 エゼキエル書 41 : 1~2

彼はわたしを拝殿に連れて行った。まず、脇柱を測ると、こちら側の幅は六アンマ、あちら側の幅も六アンマであった。これが脇柱の幅である。入り口の幅は十アンマ、入り口の両側の壁の幅はこちら側が五アンマ、あちら側も五アンマであった。拝殿の奥行きを測ると四十アンマ、その横幅は二十アンマであった。

至聖所① エゼキエル書 41 : 4

更に、拝殿の奥の面まで奥行きを測ると二十アンマ、その横幅も二十アンマであった。そして彼はわたしに、「ここが至聖所である」と言った。

南外門 エゼキエル書 40 : 24

更に、彼はわたしを南の方へ連れて行った。すると、南の門があった。その脇柱と廊を測ると、やはり前と同じ寸法であった。

東内門② エゼキエル書 40 : 23

内庭の門は、東の門と同じように、北の外門に相対していた。門から門までを測ると、百アンマであった。

南内門③ エゼキエル書 40 : 27

内庭の門は南の方に向いており、この門から南に向いている外門までを測ると、百アンマであ

⑥一般の人々は外庭に入ることは出来たが、一段高い東内門の前に立つことは出来なかった。